

# 年越し支援 拡大

## フードバンクとくしま 昨年末実施

### 前年の3倍 91人に食料

スーパーや家庭で消費されずに残った食品を福祉施設に配る活動をしている「フードバンクとくしま」が2014年12月29、30両日に行った年越し支援で、食品や日用品を受け取った人が前年の3倍の延べ91人になった。活動が浸透したことが要因とみられる。生活困窮者が多く存在する実態が浮き彫りとなったとして、フードバンクとくしまは個人に支給する活動を強化する。

年越し支援は2回目、

た。

徳島市昭和町3のヒューマンわーくびあ徳島であった。2日間に男性43人、女性48人が訪れ、13年の延べ30人を大きく上回った。高齢者の姿が目立つ中、服装からホームレスとみられる人が数人いたほか、涙を流しながら食品を受け取った女性も。数人で来たグループは「周囲に生活に困っている人が多い」と話している人が多かった。

昨年12月初旬から提供を

求めるチラシ2千枚を78の会員団体・個人に配ったほか、格差拡大などから活動への関心が高まり、会員以外の県民や企業から電話で100件以上の問い合わせがあった。

フードバンクは今年、同

(新居和人)

様の取り組みを季節ごとに実施する方針。飲食店などと提携し、余った食品を店舗が生活困窮者に直接渡す仕組みも考える。

川上健太事務局長は「想定以上の善意が集まり感謝している。必要な人に支援が届くように活動の幅をさらに広げたい」と話している。



年越し支援で並べられた野菜や日用品など―昨年12月29日、徳島市のヒューマンわーくびあ徳島